

東  
御

十

景



八景とは、ある地域における八つの優れた風景を選ぶ、風景評価の様式。10世紀に北宋で選ばれた「瀟湘八景（しょうしょうはっけい）」がモデルとなり、影響を受けた台湾、朝鮮、日本など東アジア各地で八景が選定されてきた。なお八景以外にも四景、十景、十二景などの例もみられる。

八景は、瀟湘八景や西湖八景、日本の近江八景のように対象が固定されているものが多いが台湾八景のように時代とともに内容が変遷するものもある。また、八つの風景の組み合わせは、瀟湘八景をなぞらえている場合と、知名度の高い名所を中心に選出した場合がある。

前者のような伝統的な形式では、八景を構成する個々の項目は、風景の対象地とそこでの事象や事物を組み合わせている。近年では、後者も増えてきている。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

東御市十景では、『十景を構成する個々の項目は、風景の対象地とそこでの事象や事物』を組み合わせることとした、前者の伝統的な様式を採用している。

歴史、和歌、短歌、絵画、写真等の各団体と連携を図りながら、東御市の魅力を発信していく。

私たちのふるさと東御市の景観の保全と創造を図り、  
美しく魅力あふれる住みよい町にすることを目的とする  
『東御市景観を考える会』が選定いたしました。

平成28年6月2日  
東御市景観を考える会



東御十景一覧表

名 称	場 所	時 期	事 象・事 物
① 千曲川川霧 (ちくまがわのかわぎり)	東御市内の 千曲川	春、秋	特に春、秋に千曲川から立ち昇る川霧
② 祐津晩鐘 (ねつのばんしょう)	祐津	通年	祐津に響き渡る夕刻の鐘の音
③ 海野宿夜雨 (うんのじゅくのやう)	海野宿	通年	夕暮れ時から夜にかけて海野宿に降る雨
④ 雷電くるみの里夕照 (らいでんくるみのさとのせきしょう)	道の駅 雷電くるみの里	通年	雷電くるみの里から見た幾重にも重なる山々に沈む夕日
⑤ 大川流螢 (おおかわのりゅうけい)	大川ホタルの里	6月～7月	西川の流れに沿った大川ほたるの里に飛び交う螢の群
⑥ 明神池秋月 (みょうじんいけのしゅうげつ)	芸術むら公園 明神池	秋	秋の月と、明神池に反射する姿の組み合わせ
⑦ 田楽平落雁 (でんがくだいらのらくがん)	田楽平地区	秋、冬	田楽平上空を飛ぶ雁の群
⑧ 烏帽子岳暮雪 (えぼしだけのぼせつ)	東御市内から 望む烏帽子岳	秋、冬	夕方から夜の雪が積もった烏帽子岳
⑨ 湯の丸山霧 (ゆのまるのやまぎり)	湯の丸高原	6月～7月	湯の丸高原の山霧に映えるレンゲツツジ
⑩ 御牧原蒼天 (みまきはらのそうてん)	御牧原	通 年	御牧原台地から望むどこまでも蒼い空、夜の満天の星空も

# 千曲川川霧

ちくまがわのかわぎり

おもに秋から冬にかけて出現する放射冷却天候による千曲川の朝霧現象である。千曲川北側の雷電くるみの里道の駅、寺坂、東上田桜坂の偃月刀橋周辺で見ると、布引伝説の布岩、戦国時代狼煙台が築かれた外山城跡、八重原台地、さらに遠くには蓼科山が素晴らしいきれいに見ることが出来る。

また、南側の北御牧地区より望むと、当市の代表的な烏帽子岳、湯の丸が川霧の上に浮かび上がり雄大に見ることが出来、実に目を見張る絶景である。

川霧とは、川面やその周辺にできる霧、蒸気霧の一種。気温が0°C前後以下と低いとき、および川の水温が高く、気温と水温との温度差がおよそ8°C以上になるときに発生する。このようなときには川の周辺の地面上に放射霧もできやすく、両者が混じって濃い霧となることが多い。長野県川中島や兵庫県豊岡の川霧はよく知られている。

場 所： 東御市内 千曲川両岸の河岸段丘の上部一帯

アクセス：





# 祢 津 晚 鐘

ね つ の ば ん し ょ う

祢津の東町・西宮地区一帯に時を知らせる鐘の音が鳴り、特に夕暮れは情緒豊かです。永く響いてきた鐘の音は、山の懷に抱かれた祢津の人々の暮らしに溶け込んでいます。

「祢津」は平安時代の末期からこの地域一帯を治めた祢津氏の本拠地で、居館跡と考えられている場所が西宮集落の南側と北側にあります。南側の居館跡と推定される場所にはかつて「古見立古墳」があり、掘削した際に「蕨手刀」と呼ばれる貴重な古代の刀が発見されました。北側の居館跡は土壘がわずかに残り、その脇には県指定天然記念物の「宮ノ入のカヤ」の巨木が立ち、また、周囲の山には祢津城山をはじめ、山城がいくつも残されています。

江戸時代には松平家の旗本領になり、独特な文化の華が開きました。文化13年(1816)に「西宮の歌舞伎舞台」が、翌年に「東町の歌舞伎舞台」が建てられました。

いずれも県有形民俗文化財に指定され、現役の回り舞台として日本最古・二番目と貴重です。西宮は御柱祭の寅年と申年に、東町は毎年歌舞伎が上演されています。保存と活用が図られ、地域の誇りであり心のよりどころである歌舞伎舞台です。

上小地方屈指の大きさを誇る江戸時代初期に建てられた「大日堂」や、多くの女性に崇敬された「祢津お姫様巨石」、農耕豊作の雨乞い祈願で神奈川県伊勢原市の大山詣に用いた「石尊さまの納め刀」、寛保2年(1742)にこの地を襲った水害で約500m上流から流されてきたと言い伝えられる「八間石」など市指定文化財のほか多くの文化財が残され、季節ごとに行われるお祭りなど伝統が受け継がれている祢津の里を巡ると、新たな発見があるかも知れません。

場 所： 東御市祢津東町および西宮

アクセス： 上信越自動車道東部・湯の丸ICから、県道丸子東部インター線を左折、祢津東町へ約3分





# 海野宿夜雨

うんのじゅくのやう

海野宿を訪れた方が、白鳥神社前の東枡形から西枡形を見通した時、「わあ、すてき！」「日本の原風景だ！」と驚き、西枡形まで続く町並、表の川沿いの柳並木を見つめる一時があります。

”海野”は、正倉院の御物である紐心麻綱(麻布の紐)に「信濃国小県郡海野郷爪工部君調」とあり、今からおよそ1,200年前から続いている地名です。平安時代末から室町時代にかけて、この地で活躍した海野庄(白鳥庄)領主海野氏の城下町的性格をもって集落形成されたことが推測されます。

海野宿は、寛永2年(1,625)田中宿の間の宿として成立しました。寛保2年(1,742)8月の「戌の満水」で田中宿が壊滅状態になり、本陣が海野宿に移されました。宿として大名や旅人の宿泊、荷駄の輸送などで、宿の長さが文化11年(1,814)には6町54軒(約750m)にもなり大いに栄えました。明治になり、宿駅制度が廃止されましたが、海野宿は養蚕・蚕種業で宿場の繁栄を受け継ぐと共に、信越線や国道18線が、宿場内を通らなかったこと等で、江戸時代の建造物群が残りました。

昭和62年(1,987)国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。海野宿の伝統的建造物群は、江戸時代から明治・大正・昭和初期に至るまでの長い年月の間に建築されたもので、それぞれがその時代の特徴を持った造りになっています。

それぞれの建造物が、宿場の雰囲気を漂わせる海野宿は、ゆっくり訪れたい所です。

場 所： 東御市本海野（海野宿）

アクセス： 上信越自動車道・東部湯の丸ICより10分(国道18号線海野宿入口信号を南進)





## 雷電くるみの里夕照

らいでんくるみのさとのせきしょう

冬至には美ヶ原高原に夕日が沈み、夏至には北アルプスに沈む夕日が見られる。幾重にも重なる信州の山々を茜色に染めて沈む夕日は、一年を通して素晴らしい、残照も素晴らしい美しい。とりわけ、梅雨時の北アルプスに沈む、真っ赤な大きな夕日は格別である。

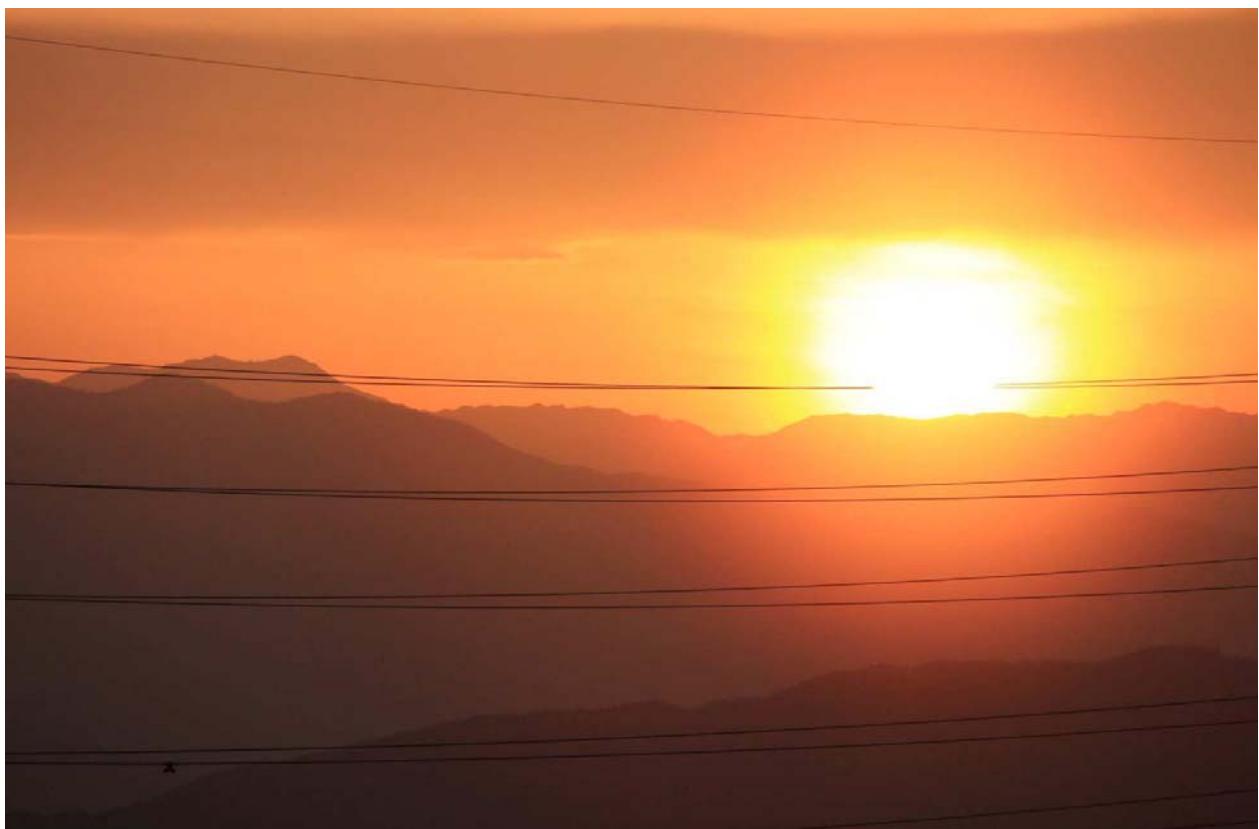
道の駅「雷電くるみの里」は、軽井沢町と上田市を結ぶ浅間サンライン沿いにあります。この駅の名称は、江戸時代に活躍した伝説の力士、「雷電為右衛門」と、全国的に有名な「くるみ」の産地であることから、「くるみの里」と名付けたものです。

郷土食コーナー…地粉の手打ちそば「成立そば」・郷土食材を活かした軽食  
農産物直売所…季節折々の取れたての新鮮農産物を直売  
特産品コーナー…地場産品の漬け物、おやき、くるみ菓子等のお土産品を販売  
雷電資料館…ご当地ヒーロー雷電にちなんだ展示品の公開  
駐車場:普通車100台、大型車20台、身体障害者用2台  
トイレ:男17、女17、身体障害者用1

場 所： 東御市滋野乙4524-1 信州浅間サンライン沿い

アクセス： 上信越自動車道・小諸ICから、浅間サンラインを上田方面へ5分  
上信越自動車道・東部湯の丸ICから、浅間サンラインを小諸方面へ5分





# 大川流螢

おおかわのりゅうけい

「大川ほたるの里」は、金原川を本流とする「西川」にあり、一帯の流域を整備・緑化し、守ってきたのは、平成12年に設立した「ほたるの里委員会」(31名)のメンバーを中心とする地域の方々。

源氏ボタルの復活を願い、幼虫の飼育を始めた頃は、餌となるカワニナ(巻貝)を、佐久まで買いに行ったり、川の流域の竹林を伐採したりなどの御苦勞もあった。現在でも、カワニナに野菜を与えて飼育、川に放流しているメンバーもいる。

ほたる祭りは、平成27年度で15回目を迎える。

～出澤さん(代表)談～

ほたるの幼虫について、実はまだ明確には知らてはいないが、水の中で何年か過ごした後、上陸してさなぎになり、1ヶ月以上、土の中で過ごし、羽化して成虫になり地上に出てくる。雨上がりに多く見られると聞くのは、土中にいるさなぎから、成虫が脱皮し易いからではないか、という説もある。

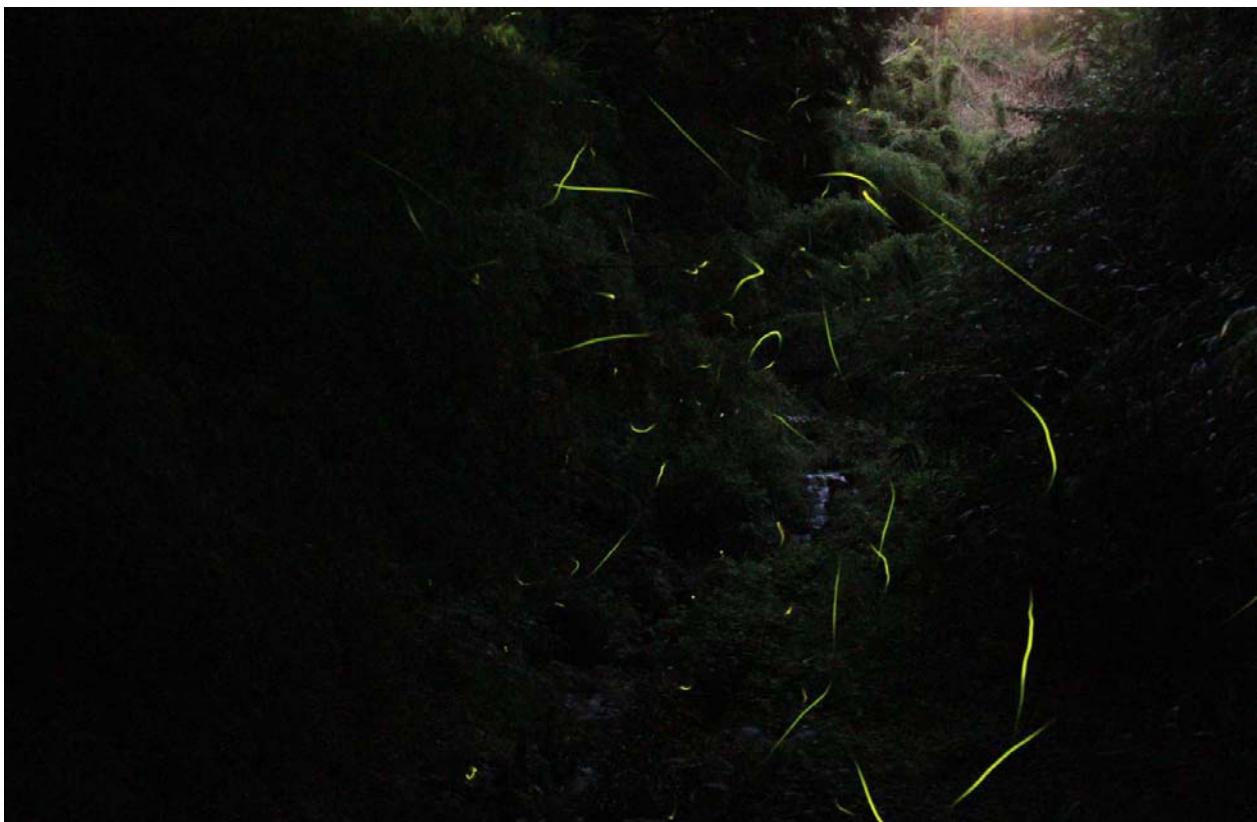
月の光を10とすると、ほたるの光は4～6、雌を呼ぶために光を放ち飛び回るのは、1週間～10日ほど。

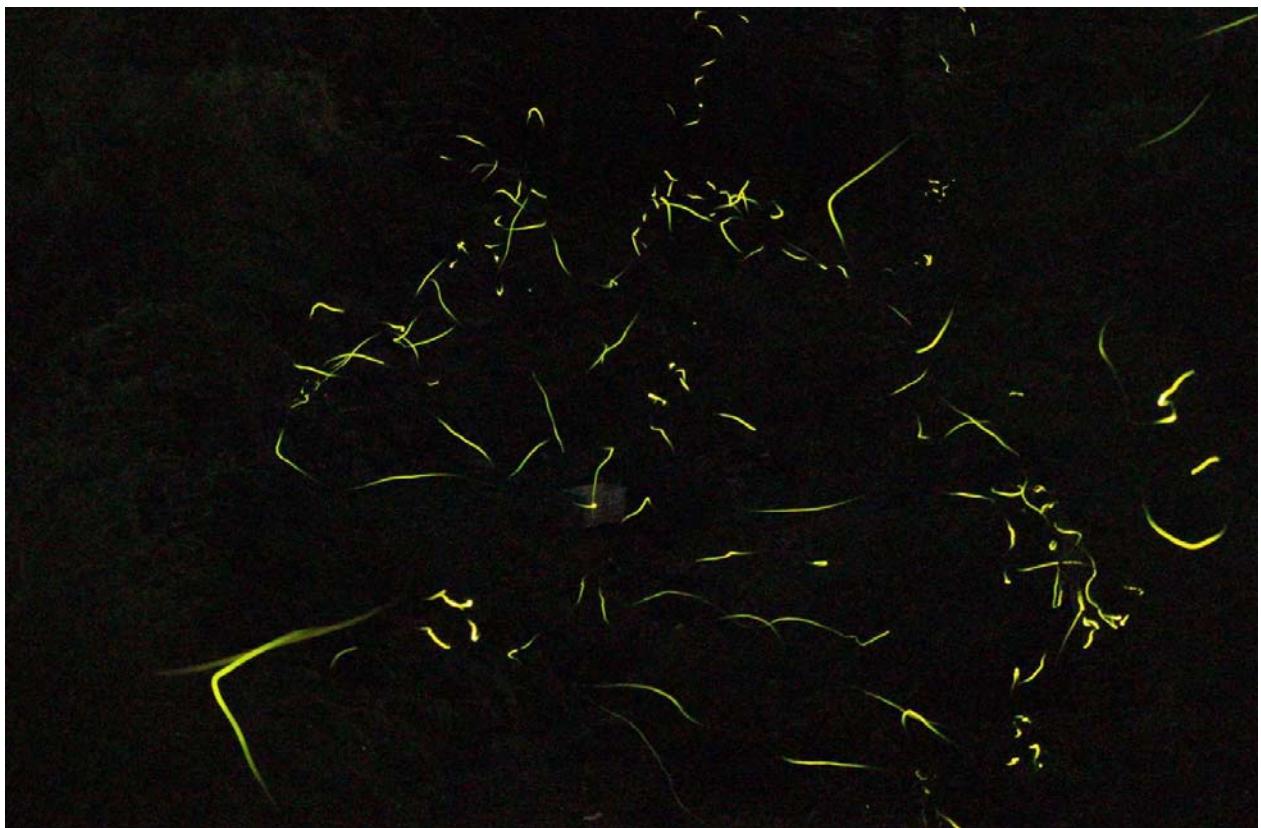
～小林正喜先生 談～

(平成27年6月27日ほたる祭りにて)

場 所： 東御市和大川「大川ほたるの里」

アクセス： 上信越自動車道・東部湯の丸ICから、県道浅間サンラインを上田方面へ10分





# 明神池秋月

みょうじんいけのしゅうげつ

江戸時代初期、蓼科山からの湧水を引き入れる用水路として開墾された延長55kmにおよぶ八重原堰から供給される冷水を農業に適する温度にあたためる目的で築造された温水ため池。

昭和50年代に大規模改修と、親水公園としての整備が行われ現在の姿になった。池の周辺は芸術村になっており、たいへん美しい場所です。

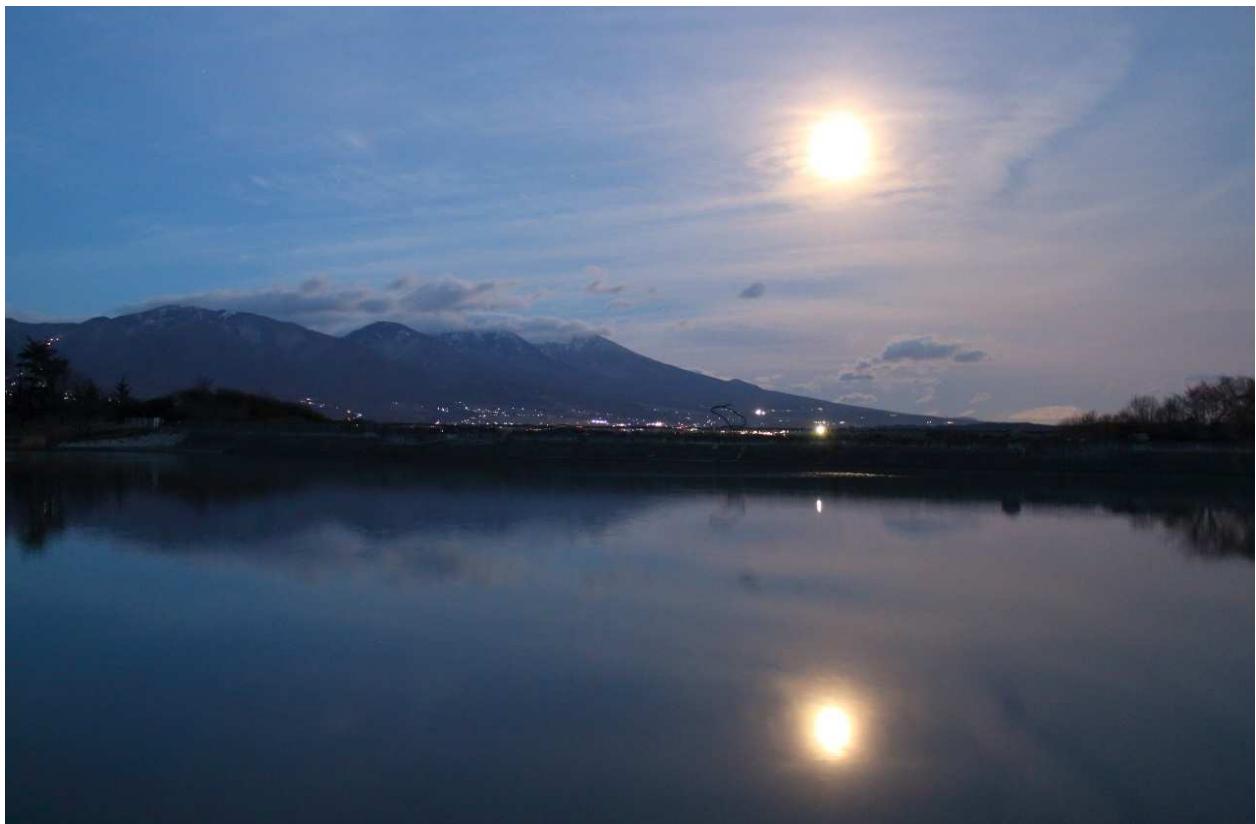
芸術村公園は、新しい休日の過ごし方を演出するふるさと創造の森として、梅野記念絵画館、コテージ、毎年秋には、「火のアートフェスティバル」が開催される登り窯、マレットゴルフ場、竹紙工房、やきもの道場等があります。

アートヴィレッジ明神館は芸術村公園内に建つ公共の宿で、ナトリウム・カルシウム塩化物泉の湯は体がよく温まる湯冷め知らずの温泉で、露天風呂から眺める浅間連峰はとても壮観です。

周囲の山々と木々そして天空に浮かぶ月が、澄み切った明神池の水面に浮かんでいる。秋の夜の風情として、この月の美しさは他に比べようもないほど美し景色です。

場 所： 東御市八重原1806-1(アートヴィレッジ明神館)

アクセス： 上信越自動車道・東部湯の丸ICから、県道丸子北御牧東部線を望月方面へ約15分





# 田 樂 平 落 雁

でんがくだいらのらくがん

田楽平は東御市の南西の隅に位置し、世帯数は30軒弱の小さな集落であるが、刀匠の宮入法廣氏も居と工房を構え、南に蓼科山から、八ヶ岳を望み、東には御牧原台地、北には浅間連峰から根子岳、太郎山～虚空蔵山まで望める大パノラマの風光明媚な地にあります。

春には五輪久保の林檎が一斉に花開き、夏にはとうもろこしが実り、青々とした田圃が風に揺れ、秋には黄金色の稻穂が一面に広がり、林檎や柿が実る。そろそろ溜め池に雁たちがやってくる頃です。

今から350年ほど前、小諸藩の支援、許可のもとに黒澤加兵衛によって蓼科山より大変な困難を経て55kmもの長い用水が引かれ、この八重原新田が開削され、開発されました。その八重原用水が最初に台地に入る場所がこの田楽平です。当時の用水路では途中で漏れて、到達するまでにはかなり少量となってしまった事でしょう。その為台地にはかなりの溜め池があります。集落の象徴でもある田楽池もその一つで、景観にも彩りを添えています。そして今では清らかな水と強い粘土質の土壤が美味しい八重原米を育んでいます。

田楽平の地名の由来は、北御牧村誌 民俗編によると、「八重原用水は、ここまで来てどうしても水が漏れてしまします。そこには土盛りができないので、芝を杭に田樂ざしのようにして水漏れを防いだ。その田樂ざしにちなんで、その地一帯を田樂平と呼ぶようになった」と記されています。が、田樂とはもともと田植え歌のこと。この開発の取付きの地で豊作を願ってつけられたのではないかとも言われています。

ながつきのその初雁のつかひにも思ふ心は聞こえ来ぬかも（万葉集）

場 所： 東御市八重原田楽平

アクセス： 上信越自動車道・東部湯の丸ICから、県道167号丸子北御牧東部線を立科町方面へ約20分





# 烏帽子岳暮雪

えぼしだけのほせつ

烏帽子岳は、湯の丸・浅間山系の最西にそびえ、古の貴人の被る烏帽子のように尖った頂上の形から、その名が付いたといわれます。その秀麗な山姿は、東御・上田地方の至る所から望め、親しみをもって「エボシ」と呼ばれています。

数万年前は、湯の丸山とともに烏帽子火山群を成していました。そのためか、頂上北側は火口壁の名残りですぐ切り立っています。

割合登りやすい山で、地蔵峠登山道からが最短で登れます。すぐ横の湯の丸山や角間山とセットで登るのもお勧めです。

頂上からは上田盆地や北アルプス、富士山・八ヶ岳、上信越の山々が一望出来ます。

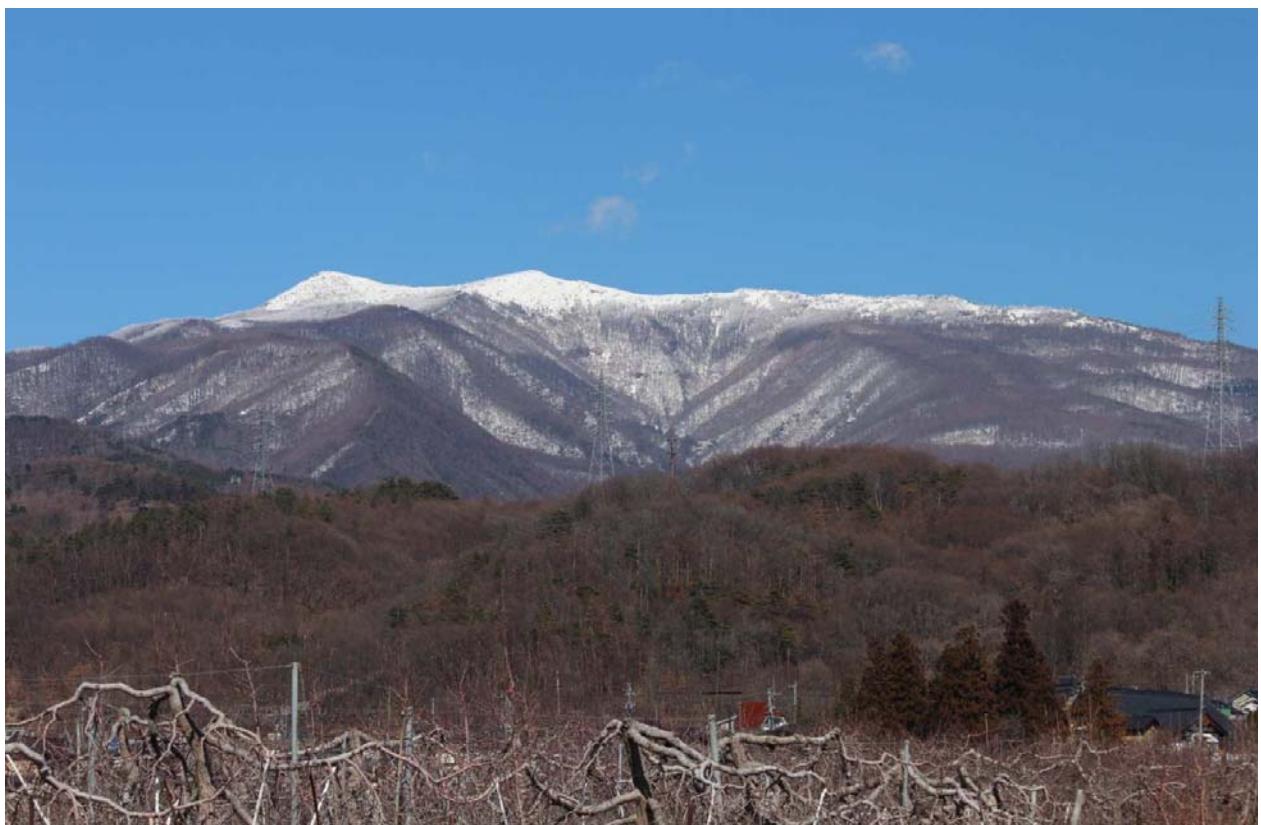
東御市の各地から望める烏帽子岳ですが、頂上に雪が積もると、青空の下では凛として気高く、そしてその姿はさらに美しく魅了されます。

中でも、北御牧の\*外山城址や、そこへ向かう途中の木戸坂からは、浅間連山と共に、まさに絶景です。

場 所： 東御市内全域

\*外山城址（戦国時代、武田信玄が信濃全土を攻略するための拠点として築かれた。北信濃に向かって千曲川を挟み、両側の高台に連続する烽火台の1つとされている。長野県町村誌は「南に大堀切一条ありて烽火台あり。この烽火台より四顧すれば、上田、小諸の旧城址より、望月・額岸寺・平尾・祢津・矢沢・戸石・丸子・尾野山・辰之口・御岳堂・岩鼻の古城址一瞬上にあり」と記している。かなりの眺望であったと思われる。）





# 湯の丸山霧

ゆのまるのやまぎり

湯の丸高原は浅間連峰の西側に位置し、その名のとおり、丸く穏やかな表情の峰々と、さわやかな亜高山帯の気候がおりなす一帯は「花高原」として親しまれています。全国的にも有名なつじ平のレンゲツツジ大群落（約60万本）は、国の天然記念物にも指定され、毎年初夏6月下旬には湯の丸の山肌を鮮やかな朱色に染め上げます。

湯の丸高原を経て、群馬県側の鹿沢温泉へ至る峠越えの道すがらには、百体の観音様が、祀られていて「百体観音石造町石」といいます。

湯の丸高原の東側には三方ヶ峰火山の火口原に広がる高層湿原の池の平湿原があり、里山に生息する動植物から、高山性の動植物までが、この一帯に混在し生息しています。さらに東の高峰高原は浅間山登山の拠点でもあります。

池の平や三方ヶ峰などを歩いていると、ときおり長野県側の斜面からのぼってくる霧が、さかまいて吹きもどされる光景に出会います。

これは、麓の千曲川の盆地からの上昇気流が群馬県側から吹く風に押し戻されるためで、この高原にみられるおもしろい現象です。

場所： 東御市新張湯の丸高原

アクセス： 上信越自動車道・東部湯の丸ICより、県道浅間サンラインを軽井沢方面へ進み、別府交差点を左折、県道東御嬬恋線を道なりに12km





# 御 牧 原 蒼 天

みまきはらのそうてん

佐久市と小諸市に境を接する御牧原台地は、南に蓼科八ヶ岳連峰、西に北アルプスの山並み、北には浅間連峰を望めるまさに天空の台地。

古くは奈良時代に皇室の御料牧場に選ばれ、平安時代は朝廷の勅使牧として栄え、「望月の駒」という全国一の駿馬の産地であったところからついた地名で、野馬除け跡も市の史跡として一部良好に保存されています。

地形は適度な起伏があり、馬の足腰を鍛えるのに絶好の場所であったことから良馬が育つことでしょう。

現在は、白土馬鈴薯やトウモロコシなどの栽培に適し、北海道を連想させる波うつ大地の曲線と、そこからどこまでも続く吸い込まれるような蒼い空は、澄みきった空気と共に、心が洗われるようで、いつまでも佇んで居たくなります。

また夜には満天の星空が広がり、無限の宇宙が実感できます。

場 所： 東御市御牧原北部区公園 モニュメント「風と台地から生まれた生命」

アクセス： 上信越自動車道・東部湯の丸ICから、県道御牧原大日向号線を佐久市方面へ約20分  
(火の見櫓、消防庫隣)



